

会報

幸わせ

第193号

発行者
 社会福祉法人
 長野市身体障害者福祉協会
 理事長 小林和夫
 〒380-0904
 長野市大字鶴賀276-10
 (長野市障害者福祉センター内)
 電話 228-3014
 ファクス 226-6263

第51回 長野市身体障害者福祉大会 盛大に開催される

10月5日長野市障害者福祉センターにおいて、68名の会員の皆様に参加をいただき開催しました。

午前の研修会では、豊楽庵庵主の高津慧親ドロテーさんから「滴水道場」日本人のためのリトリート」と題して、講演をいただきました。

午後の式典では、市社会福祉協議会寺田裕明会長、市障害福祉課竹本好司課長のお二人にご出席をいただきました。また、市議会議長、福祉環境委員長は先月の市議会議員選挙後で空席のため欠席されました。

理事長表彰・来賓祝辞・前回大会の決議事項経過報告が行われ、その後、大会決議・大会宣言が承認されました。大会決議等の内容は次のおりです。

理事長表彰受賞者

(順不同・敬称略)

☆本協会の役員(支部役員を含む)として、8年以上在籍し、顕著な功績があると認める者 (3名)

- 宮入 優 (松代支部)
- 吉田 正 (松代支部)
- 出川 正一 (松代支部)

☆8年以上の会員で、自立更生の努力が顕著であり、他の模範となる者 (4級以上) (2名)

- 北原 マミ (古牧支部)
- 堀内 達夫 (朝陽支部)

☆重度(3級以上)の身体障害者を助けるなど、他の模範となる者 (1名)

- 増田 弘美 (大豆島支部)

大会スローガン

◎ 共生社会の実現に、より積極的に取り組もう
 ◎ 「社会モデル」の理念の啓発に努めよう

大会決議

一 国の「ユニバーサルデザイン2020行動計画」において、共生社会の実現に向けた大きな二つの柱としている、「心のバリアフリー」分野と「街づくり」分野について、力強い推進とそのための積極的な啓発活動への取り組みを要望します。

一 障害者福祉政策に係る予算の拡充を要望します。

令和元年10月5日
 第51回 長野市身体障害者福祉大会



大会宣言

「障害者差別解消法」の理念を形骸化する事案が国の多くの省庁と多くの地方自治体で発覚し、大きな社会問題となりました。

今日のこの様な社会状況は、障害者の人権を軽んじ、障害者のための共生社会とは大きくかけ離れた社会の実態であることを明白に曝すことになりました。

このような社会環境は、何としても改善していかなければなりません。

そのために「障害者の共生社会」の実現に向けて、障害者の人権の理解・啓発への熱心な取り組みと同時に、為政者への啓発活動と共生社会作りのため施策への取り組みを、強く要望しなければなりません。

今、「長野県障がい者共生社会づくり条例(仮称)」の策定作業が進んでいます。

障害の有無にかかわらず、個人の尊厳を尊重し認め合い、ひとしく暮らすことができる共生社会の実現に向け、私たちは一致団結して行動していくことを宣言します。

理事長表彰を受賞して

松代支部 吉田 正

この度は、支部役員としての活動に対し、栄誉ある理事長表彰をいただき、身に余る光栄で厚くお礼申し上げます。

私は障害者になって20年になりますが、色々なことがありました。

何といっても毎日の健康の維持・管理の大変さは、その病気になつた者でなければわかりません。毎日のように通う病院も、時間と費用の両面から大変なことでした。それでも前を見て進むしかありません。

今まで、ガンの手術を3回受けました。1回目は、病気の原因がわからず、半年くらい経ってかからやと手術になりました。2回目・3回目は、ガンを早く発見できて良かったです。手術後は、家にもることなく、リハビリを兼ねて仕事をしています。

「自分の体は自分で守る！」あたりまえの事です。実行することは大変難しいです。

最後に、障害者も健常者に対しても、お互いをいたわる気持ちを持ってこれからも生活しようと思います。

講演を聴講して

若穂支部 西澤 忠信

ドイツ出身で日本の文化に興味を持った高津先生は、日本の大学に留学し曹洞宗の寺院(須坂市)の住職であるご主人と結婚されました。

その後、臨済宗のお寺の住職に導かれ5年の修行生活ののち、須坂市の人里離れた自然環境の良い場所に築90年の古い農家の家を取得し、自分の手で補修し「豊楽庵」を開き、日本人向けには座禅や写経を行い、禅の思想を日々の暮らしに生かす法話をされてきました。

先生はこの6月に、多くの人々の協力のもと、「滴水道場」を2年がかりで建設しました。献身的な奉仕活動に感謝の意を表されていました。

今の便利で快適な生活から一歩離れて、自然の中で自然を愛し、そして自分を見つめ直し自分を知る、そんな時間(余裕)を持つことも必要なことではないでしょうか。

これからも、多くの人と接し多くの趣味を持ち、他人に迷惑をかけず自分の価値観を高めていきたいと思えます。その為にも、心身ともに健康であることが大切だと感じました。

健康教室(第1回)

長野市保健所ながのベジライフ推進室から越野美智子室長を講師に迎え、フレイル予防の講演をお聞きし、簡単な運動を行いました。

フレイルとは「健康」と「介護が必要な状態」の中間の虚弱な状態のことで、①動く②食べる③つながる…の、「粋いき3か条」の取り組みにより、健康な暮らしに戻ることができるとのことでした。



希望の旅

おぶせ温泉奥に位置する「おぶせ藤岡牧夫美術館」には、長野市出身の氏が子供の頃の憧憬をメルヘンチックに描いた、小さな子供のいる

信州の風景画が、懐かしさとともに並んでいました。場所を迎賓館に移し、のどかに昼食を堪能しました。



第70回長野県 身体障害者福祉大会

8月29日、「大田市文化会館」において、約650名が参加し盛大に開催されました。当協会からは、24名の皆様に参加をいただきました。

第一部では、奥原圭永さん（バドミントン奥原希望選手の父親）から「父親として子供と関わったこと（オリンピックメダリストを育てた経験から）」と題して講演がありました。奥原選手が大きな怪我（半月板の損傷により左・右の膝を2年連続で手術）を乗り越え、世界のトップに成長するまでの関りを、熱くお話しされました。奥原選手の東京オリンピック出場が期待されます。皆さん応援しましょう。



理事長表彰受賞者は8名で当協会員で表彰を受けた方は、次のとおりです。

《理事長表彰》
(敬称略)

☆重度障害の妻を助けた夫で

他の模範である者

金澤 次男 (古牧支部)

県理事長表彰を受賞して

古牧支部 金澤 次男

この度は、妻の介護功労者として栄えある県理事長表彰をいただき、誠にありがとうございます。

妻は、平成4年に重度の腎不全になり、このため体調がすぐれず歩行も困難な状況になりました。それ以来、週3回の透析を受けるための病院への送り迎えから、日常生活の世話までを私がやらなくてはならない状況になり、私の生活リズムは大きく変化してしまいました。

しかし、妻の世話をしなければならぬ私は、すべて妻のことを最優先に考え、今日まで27年間一生懸命に介護をしてきました。そして今回受賞できたことは、誠に嬉しく感謝ひとしおでございます。

これを励みに、これからの残された人生を妻の世話をしながら、共に元気にそして明るく・楽しく過ごしていきたいと考えています。今後とも皆様からご指導をいただきますよう宜しくお願いいたします。

結びに、長野県身体障害者福祉協会の益々のご発展をご祈念申し上げます。お礼のことばといたします。

飛騨宇宙科学館

「カミオカラボ」見学記

本部 下島 仁實

リハビリ仲間数名と6月4日、飛騨市神岡町の「ひだ宇宙科学館カミオカラボ」を見学してきました。

岐阜県の山間、地下2km。神岡鉱山跡に建設された「スーパーカミオカンデ」(宇宙から飛来する見えない素粒子を観測し、物質と宇宙の起源に迫る観測所)の独創的なニュートリノ観測は、世界の理論物理学者を驚愕させ二つのノーベル賞を生みました。

このラボは、「スーパーカミオカンデ」のこうした研究の魅力を広く伝え、科学と社会の新しい関係性をつくるための全ての人に開かれた場所です。7つのキーワードをもつコーナーでは、説明員が解説にあたっています。このなかから4つ紹介します。

▲研究は何の役に立つの?▼

宇宙はどうやって物質が生まれたのか、どのようにして今の宇宙に進化してきたのか、物質の元である素粒子の仕組みがどのようになっているのか...などを解明する手がかりになる。

▲ニュートリノって何?▼

「ニュートリノ」電気を持たない中

性子、「イノ」(イタリア語で)小さい」という意味の名前を持った素粒子のひとつです。

▲どこで生まれるの?▼

宇宙の初め(ビッグバン)、超新星爆発、太陽や星の中、地球と大気と宇宙線の衝突、原子炉、加速器などいろいろな場所で生まれる。

▲水にぶつかるとなぜ光るの?▼

ニュートリノから放出された荷電粒子(電気を帯びた粒子)が大水槽の中を進む時、光の速度よりも速く走ると、「チェレンコフ光」という目に見える光を放出します。

「カミオカラボ」は、巨大な施設・設備を、理科教室風に配置し、ゲーム形式・クイズ形式にまとめてあります。また、電子倍增管などの実物展示、水槽などに埋め込める様子を見せるパノラマ映像展示するなど、全体が理解しやすく工夫されていました。

加えて、説明員も気安く疑問に答えてくれたので、子供達でも宇宙に興味をもてると思えました。

また、普段では感じる事ができない素粒子の不思議な性質を迫力の映像とゲームで体感し、日々の生活と壮大な宇宙物語との繋がりを感ずることができた一日でした。

縁側から語りつく
「縁が和リレ」

新聞配達を続けられる幸せ

若穂支部 竹内 徳雄

身体障害者福祉協会に入会して、7年が経ちます。両股関節機能障害になり人工関節に置き換える手術をしました。幸いなことに手術後はまったく痛みもなく、いままでどおりに歩くことができ感謝しています。

20年程前から続けている仕事に、新聞配達があります。家内と二人で、朝3時半頃から始めて2時間半位で終わります。山間集落では、鹿やハクビシン、狸なども出てきます。熊が目の前を横切ったこともありました。その時は、車の中にいたので安全でしたが、冬の朝は、大変です。大雪が降った時などはいつもの時間までに届けることができず、迷惑をかけてしまうこともあります。「ご苦労様!」、「いつもありがとう!」と声をかけていただくと、本当に嬉しくなります。春から秋の早朝は気持ちがよく、農作業をしている人と言葉を交わすのも楽しみです。これからも、頑張つてできる限り長く続けたいと思います。

支部だより

柳原支部長 岩下 一寛

柳原支部は、昭和29年に発足し約65年が経過しました。その間、多くの先輩の皆様のご苦労により、支部は支えられてきました。

そんな歴史のある当支部ですが、時代の流れと会員の高齢化には勝てず会員は年々減少する一方で、現在は19人となっています。

当支部の役員は、支部長・副支部長・会計監事・幹事2名の5人で構成しています。また、会費は、年々800円を徴収していますが、年々財政は苦しくなっています。

年間の行事として、5月に定期総会を開催し、11月には日帰り研修旅行を計画しています。しかし参加者は少なく、ほとんどが役員だけとなっている状況です。

障害者福祉センターで開催される協会の行事には、積極的に参加し協力していきたいと思えます。

支部の会員は少数ですが、何とか頑張つて支部を維持し、事業を継続していきたいと思っています。

今後とも、よろしくお願ひします。

「猫面瓦」散歩18

篠ノ井の巻(1)

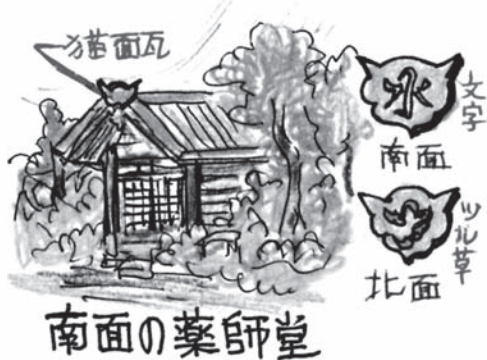
▽薬師堂の棟に2列▽

本部 相原 文哉

篠ノ井地区には「猫面瓦」が多く残っている。民家や土蔵、土塀などの棟端にある。

塩崎の山崎地区、聖川を渡り土手道を北へ降りると、桃畑を背に小さな小造小屋が南に面している。地元では「薬師堂」と呼び、石造薬師像が安置されている。

その切妻造りの小堂の棟端に「猫面瓦」があり、南面のものは「水」の文字、北面は「ツル草文」の陰刻。二者が異なった文様となっているのは珍しい。



南面の薬師堂

行事予定

- ◆クリスマスの集い(センター利用者団体で構成の実行委員会)
日時・場所：12/8(日) 9:30 障害者福祉センター
- ◆新春のつどい
日時・場所：1/10(金) 10:30 メルパルク長野
会費：3,500円(予定)
申込み：支部長へ(本部会員は12/12(木)までに事務局へ)
- ◆ニュースポーツ競技会と歌声広場
日時・場所：2/16(日) 10:00 障害者福祉センター
内容：午前 スマイルボウリング等の競技
午後 みんなで楽しく歌います
申込み：2/6(木)までに事務局へ

編集後記

令和元年の夏は、酷暑で毎日のように、「ピーポー」と救急車が動きまわっていました。自宅で過ごされた会員の皆様は、こまめな水分補給に注意し、熱中症を乗り切られたことと思います。

会報をご愛読の皆さんへ、ご意見等がありましたら事務局へお寄せください。

編集委員 玉木 秀明